

<専任教員報告>

2015年度教員活動報告

鈴木達治郎（核兵器廃絶研究センター長）

I. 教育

(1) 担当科目：「科学者の社会的責任」

「核不拡散と原子力平和利用」

(全学モジュールI「核兵器のない世界を目指して」) の一部分担

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 原子力・エネルギー環境政策
- 核燃料サイクルと核不拡散問題、多国間管理
- 核物質管理、核セキュリティ
- 科学技術の社会的影響評価、科学者の社会的責任

(2) 著書・論文・学会誌寄稿等

- Tatsujiro Suzuki, “Nuclear Energy Policy Issues in Japan After the Fukushima Nuclear Accident,” *Asian Perspective*, Vol. 39 (2015), pp. 591-605. (reviewed)
- Tatsujiro Suzuki, Tatsuo Kobayashi, Hikaru Kobayashi, Kazumasa Iwata, “Aiming at Low Carbon Society in Japan by 2050: Impact of the Fukushima Nuclear Accident and CO2 Reduction Target,” *Economics of Energy and Environmental Policy*, Vol. 5, No. 1, (2016), pp. 89-103. (reviewed)
- 鈴木達治郎、「プルトニウム在庫削減にむけて；安全保障の視点から再処理政策を転換せよ」、*科学*、2016年3月号、vol. 86, No. 3, pp. 193-195.
- 中村桂子、広瀬訓、鈴木達治郎、梅林宏道、「北東アジア非核兵器地帯設立への包括的アプローチ」の提言、*軍縮研究*、2015年11月、Vol. 6, pp. 19-26.
- 鈴木達治郎、「第61回パグウォッシュ会議世界大会：長崎開催にむけて」、*軍縮研究*、2015年11月、vol. 6, pp. 35-38.
- 日本軍縮学会編（共著者）、「軍縮辞典」、信山社、2015年9月。
- 広島市立大学広島平和研究所編（編集委員、共同執筆者）、「平和と安全保障を考える事典」、法律文化社、2016年3月。

(3) 学会発表、報告書、雑誌・新聞寄稿等。

- 「3. 11以降の原子力政策課題」、環境経済政策学会シンポジウム「日本のエネルギー政策をめぐる主要論点」、2015年4月27日。

- Web Ronza 寄稿
  - 「北東アジア非核兵器地帯の設立をめざせ：日本が率先して核の傘から脱却を」、2015年4月28日。
  - 「NPT合意失敗は『核依存症』国の責任：核兵器禁止に消極的だった『被爆国日本』の席にも重い」、2015年6月8日。
  - 「軍艦島世界遺産登録と米の原爆開発計画国立公園化：次世代に継承すべきことは何なのか」、2015年7月20日。
  - 「日本に戦争博物館を作ろう：『継承』『不戦』という戦後70年安倍談話と広島・長崎平和宣言の共通項にこそ注目を」、2015年8月18日。
  - 「イラン核合意：真の成果は再処理計画の放棄だった：日本に迫られる核燃料サイクル政策の見直し」、2015年9月21日。
  - 「『長崎を最後の被爆地に』：民生プルトニウムの生産中止も課題に：長崎パグウォッシュ会議閉幕」、2015年11月9日。
  - 「原子力研究体制の矛盾が噴き出した『もんじゅ』：厳しい勧告を生かすため、独立した第三者機関の設置を」、2015年12月14日。
  - 「国策と研究開発組織：相互依存の落とし穴—『もんじゅ』と『六ヶ所再処理事業』の今後を問う」、2016年1月14日。
  - 「北朝鮮『核実験』にどう対応すべきか：これまでの政府間交渉の無力さ露呈、今こそ非核化に向けて民間外交を」、2016年1月20日。
  - 「福島事故は終わっていない：政府が取り組むべき3つの課題」、2016年3月11日。
- 小林光、鈴木達治郎、「温暖化防止、成長のバネに」、日本経済新聞「経済教室」、2015年5月8日。
- 鈴木達治郎、「2050年の原子力政策—対立を超え、根本的改革に取り組むために」、ポリタス、2015年6月22日。  
<http://politias.jp/features/6/article/388>
- 「プルトニウムと核拡散リスク～原子炉級プルトニウムをめぐる議論」、核兵器廃絶NGO連絡会、2015年8月3日。（ウェブ寄稿）  
<https://nuclearabolitionjpn.wordpress.com/2015/08/>
- 鈴木達治郎、書評「原子力支援 マシュー・ファーマン著；協定を分析、核拡散の要因探る」、日本経済新聞、2015年9月20日。
- 鈴木達治郎、書評「原子力と人間の歴史 J・ラートカウ、L・ハーン」、日本経済新聞、2016年1月10日。
- 鈴木達治郎、「『脱原発か否か』対立超えよ」、日本経済新聞「経済教室」、2016年1月20日。
- 鈴木達治郎、「行き詰った核燃料サイクル：現状打破に直接処分を可能へ」、第24回「福島後の未来を作る」、エコノミスト、2016年2月16日、pp.70-71.

- 鈴木達治郎、「リスク巡り国民的議論を」、日本経済新聞、2016年3月17日。
  - 小林辰男、宮崎孝史、鈴木達治郎、小林光、「CO2削減は成長・豊かさ向上のバネ：環境税導入で法人税ゼロ、子育て支援の大幅拡充を」、日本経済研究センター中期予測班、第42回中期経済予測「2%成長の実現に第3の開国を：予測期間 2015-2030年度」、2016年3月。pp.153-162.
- (4) その他（講演、会議発表など）
- 「3.11以降の原子力と核問題：科学者の社会的責任とパグウォッシュ会議について」、PIASの会、2015年4月18日。
  - “Challenges and Importance of Discussing Peaceful Use of Nuclear Energy,” Pugwash Conferences on Science and World Affairs side event at NPT Review Conference, “Importance of Dialogue in Areas of Nuclear Risk,” May 18, 2015.
  - “Nuclear Power, Non-Proliferation and Social Responsibility of Scientists,” IAEA/University of Tokyo Seminar, June 12, 2015.
  - 「核燃料サイクルとプルトニウム問題—全量再処理脱却とプルトニウム量削減を目指せ」、第51回国会エネルギー調査委員会（準備会）、2015年6月18日。
  - 「使用済み燃料をどうするか?」、八戸シンポジウム「放射性廃棄物と地域を考える」、2015年6月28日。
  - 「核燃料サイクルとプルトニウム問題」、新外交イニシャティブ（NDI）訪米報告会、2015年7月31日。
  - 「3.11以後の原子力政策課題と展望」、日本経済研究センター「プロフェッショナル研修」、2015年8月21日。
  - “Multilateral Approach to nuclear fuel cycle activities in Northeast Asia,” Workshop on “Vulnerability to Terrorism in Nuclear Spent Fuel Management,” Tokyo, Sept. 14-15, 2015.
  - “Nuclear Weapon and Social Responsibility of Scientists,” Workshop on Social Responsibility, University of the Western Cape, South Africa, September 21, 2015.
  - “Nuclear Energy Policy Issues in Post-Fukushima Nuclear Accident Era,” University of the Western Cape, S. Africa, September 22, 2015.
  - “Role of Japan toward a Nuclear-Free World,” JSPS Seminar, “Perspectives of the 70 years of Atomic Age: From Berkeley, a Birthplace of the Atomic Bomb,” Berkeley, California, October 1-2, 2015.
  - “Nuclear Energy Policy Issues in Post-Fukushima Nuclear Accident era,” Asia Leadership Fellow Program 2015, Tokyo, October 9, 2015.
  - 「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言について」、日本学術会議フ

オーラム「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言：国民的合意形成へ向けた暫定保管を巡って」、2015年10月10日。

- “Mitigating Nuclear Security risks of Fissile Material Stockpile,” CSIS Workshop on Nuclear Security and Regional Fuel Cycle Choices, Singapore, November 30, 2015.
- 「核燃料サイクルとプルトニウム問題—全量再処理脱却とプルトニウム量削減を目指せ」、原子力委員会「原子力利用の基本的考え方」、2015年12月25日。
- “A Proposal for Northeast Asia Nuclear Weapon-Free Zone (NEA-NWFZ): Confidence Building and regional Security without Nuclear Umbrella,” Symposium on Prospects and Limitations of the Humanitarian Initiative: Changing German and Japanese Nuclear Policy, Berlin, January 11, 2016.
- “Mitigating Nuclear Security Risks of Fissile Material Stockpile” , Workshop on Risks in International Society and New Dimensions of Security, Keio Plaza Hotel, Tokyo, January 29-30, 2016.
- 「プルトニウム問題と核燃料サイクルをめぐる課題—第三者機関による総合評価を実施せよ」、国会エネルギー調査委員会（準備会）、2016年2月4日。
- “Five Years After: Nuclear Energy Policy Issues in Post-Fukushima Nuclear Accident era,” Institute Balseiro, Argentine, February 19, 2016.
- 「福島第一原発廃止措置と復興に向けての課題」、NHK「視点・論点」、2016年3月9日。
- “Five Years After the Fukushima Accident: Is the accident over yet?” , MIT Symposium “3.11; Five Years After Earthquake/Tsunami/Nuclear Meltdown,” Cambridge, USA, March 10, 2016.

### III. 地域貢献

#### (1) 地域活動

- 「核兵器廃絶とパグウォッシュ会議—2015年長崎大会に向けて」、非核宣言自治体協議会、平成27年度第1回研修会。2015年6月1日。
- 「核兵器廃絶に向けて—主要課題とRENCAの取り組み」、SGH(スーパーグローバル・ハイスクール)長崎東高校講演会、2015年6月23日。
- 「NPT再検討会議報告—核兵器廃絶に向けての主要課題とRECNAの取り組み」、核兵器廃絶市民講座、アルカスSASEBO、2015年7月14日。
- 「NPT再検討会議報告—核兵器廃絶に向けての主要課題とRECNAの取り組み」、連合2015ナガサキ集会、2015年8月8日。
- 「2015年パグウォッシュ会議長崎大会報告—長崎を最後の被爆地に」、原水禁長崎県協議会講演会、2016年1月23日。

- 「現代の核問題」、第6期平和案内人講座、2016年1月19日。
- 「原子力の平和利用と核不拡散—プルトニウムを考える」、核兵器廃絶市民講座、2016年3月5日。

(2) 外部委員

- 日本経済研究センター 特任研究員。
- パグウォッシュ会議評議員。パグウォッシュ 2015 組織委員会委員長。
- 日本科学技術振興機構社会技術研究センター 運営評価委員会 (座長)。

IV. 校務分掌

- 教育研究評議会委員
- 研究連絡調整会議委員
- 人事委員会委員